特集 まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。今月は、「地域の英語力の向上の取り組み」の現場からお届けします。

グローバルなコミュニケーション能力を育む

豊かな国際感覚とコミュニケーション能力向上を目指して

外国語指導助手（ALT）の活動について

経済・社会のグローバル化が進展する現代社会。その中で異なる文化や文明との共存、そして国際協力の重要性がますます増大し、国際共通語として中心となっている「英語力」の向上が強く求められるようになりました。子どもたちが、「英語」のコミュニケーション能力を身につけることは、子どもたちの将来のためにも、また、日本のさらなる発展のためにもとても重要なことです。

そのため、国の学校教育においては、「小学校段階における外国語活動を含めた外国語教育の充実」を目指し、平成23年度から、公立小学校の5、6年生に「外国語活動」が導入されました。また、中学校・高等学校においても授業時数を増やすなど英語力の向上に取り組んでいます。

こうした流れの中、上毛町では、総合計画において「学校教育の充実と国際交流の推進」を掲げ、平成2年度からは国際交流員（CIR）、平成18年度からは外国語指導助手（ALT）を活用した授業や外国語活動を実施しています。また、平成25年度からは上毛中学校全学年を対象とした英検塾などを実施しています。さらに、海外の生活習慣や文化を直接肌で触れさせることを目的に、小中学生を海外に派遣する事業を行うなど、グローバル社会において主体的に行動できる人材の育成を図る様々な施策を展開しています。

小中学校で英語を教えたり、国際交流事業のサポート役として、英語圏からの外国人招致を行ってきました。

合併前の平成2年度、旧新吉富村において国際交流員を招致し、地域での異文化交流活動がスタートしました。その後、15年間で8名の国際交流員を招致してきましたが、平成18年度からは外国語指導助手に変更し、平成26年度までの9年間で4名招致しています。

保育所や小学校では、「コミュニケーション能力の土台づくり」を目標に、ゲームなど体験的な授業を通じて英語活動や国際理解教育などを行っています。中学校では、小学校での土台を基に「聞く、話す、読む、書く」の4技能の定着を目指し、授業を行っています。

子ども達は、身近な外国人とふれあうことで「外国人」に対する抵抗感が少なくなり、外国の文化や外国語を体験的に理解することができるため、異文化への興味・関心が高まってきています。また、外国語指導助手から本場の英語を聞くことにより、リスニング力の向上にも繋がっています。

歴代国際交流員（CIR）、外国語助手（ALT）一覧

年度	氏名	性別	出身国
H2～3年度	Nicol（ニコル）	女	NZ
H4～5年度	Lucy（ルーシ）	女	USA
H6～7年度	Sean（ショーン）	男	USA
H8～9年度	Orla（オーラ）	女	AUS
H10年度	Sol（ソル）	男	AUS
H11～12年度	Merinda（メリンダ）	女	AUS
H13～14年度	Ruby（ルビー）	女	AUS
H15～17年度	Daniel（ダニエル）	男	USA
H18年度	Tadayasu（タダヤス）	男	USA
H19～20年度	Julia（ジュリア）	女	AUS
H21～23年度	Shirin（シリン）	女	AUS
H24～26年度	Tessa（テッサ）	女	AUS

自分の英語力を把握し、一歩上を目指す

上毛町英検塾について

「英検」とは、正式名称を「実用英語技能検定」といい、年間約230万人が受験している国内最大規模の英語検定試験です。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を、筆記・リスニング・スピーキングのテストで測定し合否を判定するもので、初級の5級から最終目標の1級まであります。

受験者一人ひとりが目標を設定し、確実に実力を伸ばしていけるよう設定されており、チャレンジすることで、自分の英語力を把握できます。また、日常で使われる英会話が身につくことで、英語力の向上につながっています。

上毛中学校では全学年・全生徒を対象に平成25年度から実施し、中学校初級程度の「5級」、中学校中級程度の「4級」、中学校卒業程度の「3級」について、生徒が各々の目標を設定して受験しています。

昨年度は、延べ84名の生徒が受験し、約80％の生徒が合格しています。

英検の合格は、それで完結ではなく、さらに上の目標を設定することで、生徒一人ひとりがやる気を見い出し、着実に英語力を身につけることができています。また、合格に至るプロセスにおいて英語の魅力を再発見するなどの効果も期待されています。

H25年度　英検塾受講状況

受講級	英検塾受講者	英検受験者	うち合格者	合格率
3級	17名	17名	11名	64%
4級	44名	33名	23名	69%
5級	37名	34名	33名	97%
計	98名	84名	67名	79%

外国人との交流で国際的視野を広げる

少年海外体験学習事業

旧新吉富村は平成2年度から、旧大平村は平成9年度から少年海外体験学習事業を実施しています。

これまでに626名の小中学生が参加し、ニュージーランドやオーストラリアなど4カ国へ研修に行き、現地の小学生との交流や一般家庭でのホームステイ、文化施設などの視察を行ってきました。

今年度は、16名が夏休み期間中の8月19日から7泊8日の日程でオーストラリアのケアンズを訪問しました。

海外へ研修に行く喜びと不安を抱きながら日本を出発し、異国の地に降り立った子どもたちは、これまで学んできた英語や身振り手振りで現地の学校やホームステイ先の人々と交流しました。また、海外の世界遺産を視察し、異国の文化に触れることで国際的な感覚に目覚めたようです。

また、研修は小学校6年生から中学校3年生の子どもたちが参加し、班別で行動をすることが多いため、上級生はリーダー的な役割を担うことで大きく成長し、下級生は上級生の指導のもと、班員と協力して研修生活を送ることの大切さが分かったようです。

また、普段、日本の生活で容易にできていたことも、ホストファミリーとの生活を通じ、自分自身で問題を見つけ・それを解決する方法を考え・解決する「生きる力」を育み、自身の自立・成長につながる経験になりました。

真の国際人を目指して

さまざまな分野で国際化が進展し、世界中の人々が共存することが不可欠な時代です。そして、国際社会においては、子どもたちが日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが大切です。

それは、郷土や日本の歴史、伝統文化や先人の生き方など、過去について学ぶとともに、世界で活躍している人々や最先端の技術などに触れることで、人の過去と未来を知ることができ、ひいては、自分の過去と未来をつないでいくことでもあります。こうした過去と未来をつなぐ学びを通して、自らの生き方を考え、志を持ち、チャレンジ精神にあふれた、世界で活躍できる真の国際人を育てます。

町の将来、日本の未来を託していく子どもたちは、家族だけでなく、地域にとっても、社会にとっても大切な存在です。「ひとづくり」である教育は、形として目には見えませんが、将来上毛町の児童生徒が英語教育や学習、体験活動を通じて、国際社会で大いに活躍するための一助となるよう、地域と学校が一体となって、これからも英語力向上の取組みを続けていきます。

●問い合わせ先　教務課　学務係
TEL 72-3111（内線178）